

問1 人工歯の脱離の原因はどれか。

- ☒ a 義歯の咬合の不調和
- b 義歯の不適合
- c リリーフの不足
- d 義歯床の厚さ不足

問2 支台装置の修理に関して正しいのはどれか。

- a 人工歯を必ず交換する。
- ☒ b 新たに製作した支台装置と交換する。
- c 金属床義歯にのみ適応される。
- d 線鉤でのみ行われ鑄造鉤では行われない。

問3 リベースについて正しいのはどれか。

- a リラインと比べて作業が容易である。
- b 直接法で行う。
- c 義歯の粘膜面のみ新しい床用材料と置き換える。
- ☒ d 人工歯以外の義歯床をすべて新しくする。

問4 リラインの目的はどれか。

- a 人工歯の修復
- b 破折の修復
- ☒ c 適合の回復
- d 審美性の向上

問5 リラインで交換する部位はどれか。

- a 人工歯
- b 義歯床全体
- ☒ c 義歯床粘膜面
- d 義歯床研磨面

問6 リラインと比べたリベースの特徴はどれか。

- a 行う頻度が多い。
- b 下顎義歯には適応されない。
- c 上顎義歯の口蓋部分が厚くなりやすい。
- d** 破折修理を繰り返してる場合、義歯自体の強度を修正できる。

問7 オーバーデンチャーの目的はどれか。

- a 義歯破折の防止
- b** 顎堤の負担軽減
- c 支台歯の清掃生向上
- d 歯髄の保存

問8 オーバーデンチャーで正しいのはどれか。

- a 歯槽骨が吸収されやすい。
- b 咀嚼リズムが不安定になる。
- c** 義歯での咀嚼の順応に優れる。
- d 歯冠歯根比は悪化する。

問9 オーバーデンチャーが通常の義歯と比較して破折しやすい理由はどれか。

- a レジン床内の気泡が多くなりやすい。
- b** 残存歯部に応力が集中しやすい。
- c 顎堤吸収により早期に適合不良になりやすい。
- d 人工歯と床の結合不備が生じやすい。

問10 オーバーデンチャーの支台装置として用いるのはどれか。

- a 歯冠外アタッチメント
- b** 根面アタッチメント
- c クラスプ
- d フック

問 11 オーバーデンチャーについての患者の感想と思われるものはどれか。

- a 「歯に留める部分がピンク色になっていて、目立たなくてうれしい。」
- b 「歯の横に付いてる金具の下に汚れが溜まって気になる。」
- c 「歯は全部抜いてしまったけど、上の入れ歯はよくくっついてます。」
- d** 「磁石でパチっとはまるから、安定していて嬉しい。」

問 12 金属床義歯の特徴はどれか。

- a** 強靱でたわみが少ない。
- b 修理・リベースが簡単である。
- c 異物感が大きい。
- d 製作に特殊な装置を必要としない。

問 13 ケネディーの分類Ⅲ級 1 類の金属床義歯を製作するときに必要な技工操作はどれか。

- a** サベイング
- b ポストダムの設定
- c レストシート形成
- d パラトグラムの採得

問 14 金属床義歯のフレームワークに使用するのはどれか。

- a 金銀パラジウム合金
- b JIS 第 1 種銀合金
- c タイプ 1 金合金
- d** 白金加金

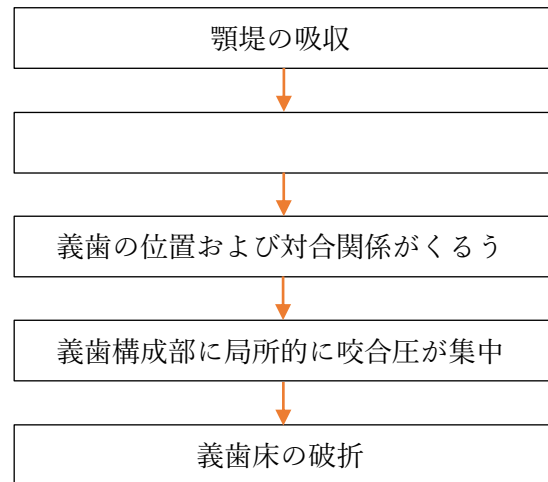
問 15 ノンメタルクラスプデンチャーの利点はどれか。

- a 耐久性に優れる。
- b 修理が容易である。
- c 維持力を調整しやすい。
- d** 装着感がよい。

問 16 時間の経過とともに生じる義歯破折・破損のメカニズムについて図に示す。

空欄に当てはまる内容として適当なものはどれか

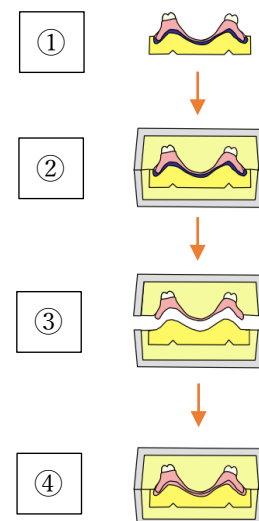
- a 義歯の不適合
- b クラップの破折
- c 人工歯の脱離
- d 咀嚼リズムの変化



問 17 フラスクを用いたリラインの技工操作を図に示す。

義歯床粘膜面のレジンを一層削除するタイミングはどれか。

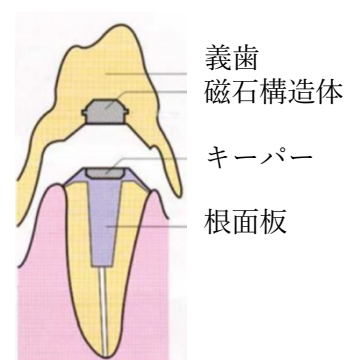
- a ①
- b ②
- c ③
- d ④



問 18 あるオーバーデンチャーの断面図を図に示す。

このオーバーデンチャーの特徴として正しいのはどれか。

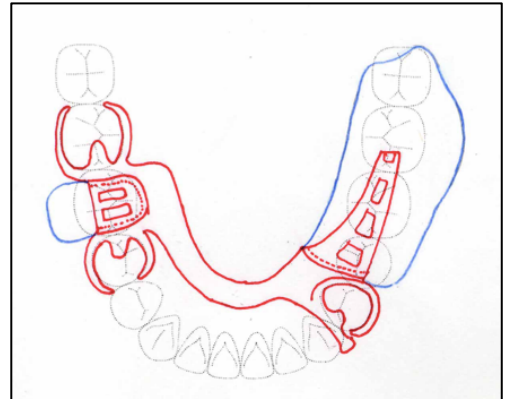
- a 歯髄は保護されている。
- b 歯根膜感覚が保持されている。
- c 顎堤の負担が増大している。
- d 支台歯のう蝕や歯周病のリスクがなくなっている。



問 19 金属床義歯の設計を図に示す。

製作時に必要な事はどれか。

- a フィニッシュラインは研磨面と粘膜面とに付与する。
- b 床縁やバーの内面に溝状にビーディングを施す。
- c ティッシュストップは付与しない。
- d ワイヤークラaspを製作する。



問 20 この義歯についての説明で最も適しているのはどれか。

- a ノンメタルクラスプデンチャーとは呼べない。
- b ケネディーの分類Ⅰ級の症例である。
- c アイヒナーの分類A1の症例である。
- d 人工歯には保持孔が付与されている。

